

被爆八十年ギャラリー

深堀素行海軍一等飛行兵

昭和二十（一九四五）年二月五日



海軍飛行予科練習生（予科練）の象徴である、軍楽兵と同じ短ジャケットに「桜と錨」の七つボタン、下士官型軍帽。昭和 19（1944）年 10 月頃に、海軍特別志願兵制度で海軍に入隊していた朝鮮・台湾出身者を対象にした特別丙種飛行予科練習生（特丙飛）が新設され、特丙飛 1 期は、乙種飛行予科練習生（乙飛）24 期とともに、12 月 1 日に鹿児島空へ配属された。

戦前に予科練を卒業した練習生は、太平洋戦争勃発とともに、下士官として航空機搭乗員の中核を占めた。

それ故、戦死率も非常に高く、期によっては 9 割以上が戦死という結果にもなった。昭和 19 年に入ると、特攻の搭乗員の中核となり、その多くが命を落としている。